

伊仙町立学校の教職員に関する 業務量管理・健康確保措置実施計画



令和8年4月
伊仙町教育委員会

目 次

1. 計画の趣旨・現状 -----
2. 目標 -----
3. 計画の期間 -----
4. 実施する業務量管理・健康確保措置の内容 -----
5. 関連する取組, 今後のフォローアップについて -----

1. 計画の趣旨, 現状

(1) 計画の趣旨

- 学校における課題が複雑化・多様化する中において、学習指導要領を踏まえた教育課程等を確実に実施し、質の高い教育を持続発展させるためには、学校における働き方改革を実質的かつ着実に推進していくことが必要不可欠です。

- 令和7年6月の給特法等の改正を受けて全部改正された「公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員の服務を監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」（以下「指針」という。）では、服務を監督する教育委員会及び校長等の学校の管理職は、労働安全衛生法などの関係法令に基づき、教育職員の勤務時間管理や健康管理を徹底し、業務分担の見直しや適正化、必要な環境整備等を進めることが求められています。また、教育職員の心身の健康を損なうことがないように、安全配慮義務を十分に果たすことが明記されています。

- 伊仙町の全ての子供たちが、未来を生き抜く必要な力を身に付け、その将来に大きく羽ばたくことができるよう、教育の役割は一層重要となっています。子供たちを最前線で支える教職員一人一人が心身ともに健康で、その専門性を十二分に発揮して質の高い授業や教育活動を担っていけるような環境整備が求められています。

- 教職員一人一人がこれまでの働き方を更に見直し、自ら学ぶ時間や児童生徒と向き合う時間を確保することで、児童生徒に対してよりよい教育が実現します。学びの専門職としての「働きやすさ」と「働きがい」を両立して、日々生き生きと児童生徒と接することができる勤務環境の実現を目指し、本計画に基づく取組を進めてまいります。

○引用
R6.2「鹿児島県教育振興基本計画」

○参考
「指針」第1章 総則 第1節 趣旨

○参考
R元 9 学校における業務改善アクションプラン 「取組を進めるに当たって」

○参考
県教委HP 「令和6年度学校職員の勤務実態等調査の結果について（上半期）」

(2) 本町の現状

○ 本町では、県教育委員会が平成 31 年 3 月に、長時間勤務の削減方策として、本県の実情に即した数値目標を設定し、中長期的な具体的な取組を「学校における業務改善アクションプラン」として取りまとめ、3 年間にわたって、教職員の働き方改革に取り組むよう示されたのを受け、本町も取り組んできました。

また、令和 2 年 3 月に、「鹿児島県立学校の教育職員の健康及び福祉の確保を図るための措置に関する規則」を制定・施行されたことを踏まえ、教育職員の在校等時間の管理及びその時間の縮減を行いました。

○ 「アクションプラン」終了後の令和 4 年度以降についても、引き続き教職員の在校等時間や業務改善の推進状況を把握し、部活動休養日の設定や統合型校務支援システムの導入、教育業務支援員の配置、8 月 1 日の出校日廃止、土曜授業を実施しないなどに取り組み、また、管理職研修会において業務改善に効果のあった取組等を紹介し活用を促すほか、専門家による講話や参加者による研究協議を実施するなど、業務改善を含めた管理職のマネジメント能力の向上も図ってきました。

○ こうした取組の結果、本町における令和 6 年度の学校職員の時間外在校等時間の状況は、以下のとおりでした。

	月 45 時間を上回る割合		月 80 時間を上回る割合	
	小学校	中学校	小学校	中学校
上半期	10.9%	23.5%	1.2%	2.8%
下半期	13.7%	18.2%		

○ 令和 6 年度時間外の在校等時間が月 45 時間を上回る教職員の割合は、小学校で約 1 割、中学校で約 2 割となっています。前述したとおり、アクションプラン策定前と比べると大幅な改善が見られますが、依然として 45 時間を超える教職員が一定数存在しています。さらに、月 80 時間を上回る割合については、小学校で 4 割弱、中学校では半数以上に上ることが分かっています。校種、また、職種（特に教頭職）によっても状況に差が見られる

○参考
R元 9
学校における業務改善アクションプラン
「冒頭」

○参考
R6.2 県議会答弁

○参考
県教委HP
「学校における業務改善アクションプラン」大 1 回フォローアップ調査結果概要
(令和元年 10 月調査)

「令和 6 年度学校職員の勤務実態等調査の結果について
(上半期 下半期)」

ことから、課題に応じた一層の取組が必要であると考えられます。

- 教職員一人一人がこれまでの働き方を更に見直し、自ら学ぶ時間や児童生徒と向き合う時間を確保することで、児童生徒に対してよりよい教育が実現するとともに、学びの専門職としての「働きやすさ」と「働きがい」を両立して、日々生き生きと児童生徒と接することができる環境の整備に向けて、働き方改革を一層推進していかなければなりません。

- こうしたことを踏まえ、公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法第8条に基づいて、本計画を策定するものです。

2. 目標

本計画において達成を目指す目標は以下のとおりです。

(1) 時間外在校等時間に関する目標

- 1 箇月時間外在校等時間が 45 時間以下の割合を 100%にします。
- 1 年間時間外在校等時間を 360 時間以下にします。
- 1 年間における 1 箇月時間外在校等時間の平均時間を 30 時間程度にします。

(2) ワーク・ライフ・バランスや働きがい等に関する目標

- 年間の年次有給休暇の平均取得日数を 15 日以上にします。
- ストレスチェックにおける高ストレス者の割合を 10%以下とします。
- ストレスチェックにおける各学校の健康リスクの値を 100 以下とします。
- ストレスチェックにおける「働きがい」「仕事や生活の満足度」の値の向上を図ります。
- 子育て目的の休暇等の取得を促進します。
 - ・ 育児休業取得者数割合を、女性職員 100%，男性職員（1 週間以上の取得率）85%とします。【女性職員 100%，男性職員 28.6%】
 - ・ 男性職員の出産補助休暇及び産前・産後休暇の年間取得者数割合を 100%とします。【出産補助休暇 66.7%，産前・産後休暇 51.8%】

3. 計画の期間

令和 8 年度～令和 11 年度

4. 実施する業務量管理・健康確保措置の内容

- 本町では、本計画期間中の重点事項として以下の(1)から(3)の内容に取り組みます。

(1)は、国が「指針」の中で示している、「学校又は教師の業務の3分類」（「学校以外が担うべき業務」、「教師以外が積極的に参画すべき業務」、「教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務」）を踏まえ、優先的・重点的に取り組む事項です。

(2)は、各学校における措置の推進を通じて業務の適正化を図る事項、(3)は、教職員の健康及び福祉を確保するために取り組む事項です。

(1) 「業務の3分類」を踏まえた業務の見直し

イ 学校以外が担うべき業務

◇ 登下校時の通学路における日常的な見守り活動等（3分類「①関係」）

- ・ 【小・中を対象】各地域の実情を踏まえつつ、保護者・地域住民による通学路の見守り活動を推進します。

◇ 放課後から夜間などにおける校外の見回り、児童生徒が補導されたときの対応（3分類「②関係」）

- ・ 放課後から夜間などにおける校外の見回りについて、原則、学校が独自に行わないこととします。
- ・ 補導された児童生徒の引取りは、保護者が第一義的な責任を負うことについて広く理解を求めるため、地区別高等学校等生徒指導連絡協議会等で周知します。
- ・ 【小・中を対象】児童生徒が補導された際の緊急応対時の連絡先を、学校、警察署、保護者等と協議し、連絡系統を学校や警察署等へ周知します。

◇ 学校徴収金の徴収、管理（公会計化等）（3分類「③関係」）

- ・ 教職員の金銭管理等に係る業務について、保護者の口座からの口座振替や教材業者等による保護者への直接徴収などによる改善を進めます。
- ・ 学校徴収金の公会計化については、国や他県等の動向を注視しながら、対応について検討します。

◇ 地域学校協働活動の関係者間の連絡調整等 (3分類「④関係」)

- ・ 学校と地域が協働で行う活動について、連絡調整等を学校関係者評価委員や学校運営協議会委員、地域ボランティア、地域学校協働活動推進員等が行うなどの連携を推進します。
- ・ **【小・中を対象】** 学校・地域・PTA・社会教育関係団体等との連絡・調整を、「地域学校協働活動推進員等」が行うなどの体制を整備します。

◇ 保護者等からの過剰な苦情や不当な要求等の学校では対応が困難な事案への対応 (3分類「⑤関係」)

- ・ 学校がスクールロイヤーを活用できる環境の充実を図ります。
- ・ 保護者等からの過剰な苦情や不当な要求等が生じた際の対応方針の策定等について検討します。

□ 教師以外が積極的に参画すべき業務

◇ 調査・統計等への回答 (3分類「⑥関係」)

- ・ 学校への調査・報告物については、削減を図るとともに、デジタル化による業務の効率化を推進します。

◇ 学校の広報資料・ウェブサイトの作成・管理 (3分類「⑦関係」)

- ・ 学校の広報資料はデータによる配信を推進します。
- ・ 各学校のウェブサイトの管理について、担当教員の過度な負担とならないよう多くの教職員による更新が可能となるウェブサイトシステム(CMS)の活用により、業務の効率化を図ります。

◇ ICT機器・ネットワーク設備の日常的な保守・管理 (3分類「⑧関係」)

- ・ ICT機器等の保守・管理については、担当教員の過度な負担とならないよう支援員を配置するなど、効果的な運用を図ります。

◇ (学校プールや) 体育館等の施設・設備の管理 (3分類「⑨関係」)

- ・ 地域住民に体育館等を開放する際は、鍵の管理を含む施設・設備の管理について、利用団体が責任を負うことを周知・徹底します。

◇ 校舎の開錠・施錠 (3分類「⑩関係」)

- ・ 校舎の開錠・施錠が、教頭など特定の教職員に集中しないように、教職員等で役割分担をするなどの取組を推進します。

◇ 児童生徒の休み時間における安全への配慮 (3分類「⑪関係」)

- ・ 学級担任等の特定の教員のみが行うのではなく、安全点検等の必要な措置を行った上で、教職員等の輪番で対応するなどの取組を推進します。

◇ 校内清掃 (3分類「⑫関係」)

- ・ 校内清掃については、教育的価値を踏まえながら、実施回数や清掃範囲の見直しなど校内清掃の在り方を見直します。

◇ 部活動 (3分類「⑬関係」)

- ・ 国が示すガイドラインを踏まえ、全ての部活動において原則週2日以上上の部活動休養日など、適切な休養日等を設定するよう促すとともに、学校への部活動指導員の配置に努めます。

ハ 教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務

◇ 給食の時間における対応 (3分類「⑭関係」)

- ・ 給食時間における指導や見守りについては、緊急時の対応等必要な情報を学校全体で共有し、学級担任のみが行うのではなく、他の教職員等と連携して取り組みます。

◇ 授業準備、学習評価や成績処理 (3分類「⑮, ⑯関係」)

- ・ 授業準備や採点作業、宿題の提出確認等を補助する支援スタッフ等の配置を検討します。
- ・ 統合型校務支援システムの改修を進め、学校が学習評価や成績処理等を行う際の事務負担の軽減を促進します。
- ・ 授業支援アプリや情報共有ツールなどの利用が可能となる県域教育用アカウントの活用により、生成AIなどの活用を推進し、教育の質の向上と業務負担の軽減を図ります。

◇ 学校行事の準備・運営 (3分類「⑰関係」)

- ・ 学校行事の準備、運営について、教育的価値を踏まえながら、地域等外

部との連携を推進します。

◇ 進路指導の準備（3分類「⑱関係」）

- ・ 教職員と協働して生徒の進学先に関する情報収集等を行う体制の充実を図ります。

◇ 支援が必要な児童生徒・家庭への対応（3分類「⑲関係」）

- ・ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等が校内会議に参加し、専門的な知見を活用しながら教職員が協働して対応する取組を進めます。
- ・ 医療・福祉・警察等の関係機関と学校との連携等に関する研修を通じて、関係機関の役割分担を明確にし、効果的な支援の実施を進めます。
- ・ 特別支援教育支援員や医療的ケアに対応する看護師の配置に努め、教職員と協働した指導・支援を推進します。

(2) 学校における措置の推進

学校における以下の措置を推進することで、教職員が担う業務の適正化を図ります。

- ・ 各学校の教育課程における年間総授業時数や週当たり授業時数について、年度当初の段階で真に必要な時数となっているか確認し、必要に応じて指導・助言します。併せて、施行規則別表外の見直しについても必要に応じて指導・助言します。
- ・ 学校行事や様々な教育活動について、それぞれの教育的価値を踏まえ、精選又は統合を促進します。
- ・ クラウド^{※1}等や AI を活用した校務DX^{※2}を推進し、業務の効率化を図ります。

^{※1} クラウド：自分のパソコンやスマホの中ではなく、インターネットで接続した先にある、コンピュータやデータ置き場を使う仕組みのことです。インターネット経由でデータやソフトを利用するため、家でも職場でも使える、パソコンが壊れてもデータは消えないなどの利点があります。

^{※2} 校務DX：教職員が行っている事務作業をデジタルの力で短時間、正確に代替していくことです。

- ・ 職務経験が少ない教職員が適切な支援や助言を得られるよう、校務分掌の在り方や担当する授業時数などについて総合的に配慮するとともに、ワークショップ型の校内研修の実施など、コミュニケーションを図りやすい職場環境の整備を推進します。
- ・ フレッシュ研修（初任者研修）を含む年次別研修の内容や方法等の改善を図ります。
- ・ 勤務時間外の電話応対等について、自動音声機能等に対応した機器の導入を検討します。
- ・ 働き方改革や業務改善の取組が、全ての教職員等による主体的な取組となるよう、鹿児島県業務改善実践校モデル事業等を踏まえた校内研修を全ての学校で実施します。
- ・ 各学校において、学校評価の結果等に基づき学校運営の改善を図る場合に、その改善が在校等時間の長時間化につながらないようにするため、この実施計画に適合するものとなるように支援や指導を行います。
- ・ 学校目標に対する評価を定期的（每学期末、毎月）に実施するよう、必要に応じて指導・助言します。

(3) 教職員の健康及び福祉の確保に関する取組

教職員の健康及び福祉を確保するため、労働安全衛生法等の規定を遵守するとともに、以下の内容に取り組みます。

- ・ 学校における定時退校日を原則週1回以上設定します。
- ・ 年次有給休暇の取得について、管理職に取得促進の趣旨を周知するとともに、年間を通じて休暇取得を段階的に促したり、学期ごとに教職員等から休暇取得計画表を提出させたりするなど、計画的な年次有給休暇のより一層の取得促進を図ります。また、ゴールデンウィーク期間、夏季等における連続休暇の取得を推進します。

- ・ 8月11日～17日を学校行事等を実施しないリフレッシュウィークとします。また、リフレッシュウィーク期間に原則5日間以上（週休日、休日を含む）の学校閉庁日を設定します。
- ・ 終業から始業まで、一定時間以上の継続した休息時間の確保について、11時間を目安として確保できるよう取組を進めます。
- ・ 早出遅出勤務など柔軟な働き方について積極的に推進します。
- ・ 「長時間労働による健康障害防止のための産業医等の面接指導実施要領」に基づき、該当する教職員等を対象とした医師による面接指導を実施します。
- ・ 学校保健安全法第15条に基づく教職員等の健康診断を、毎学年定期に実施します。
- ・ 教職員等のメンタルヘルス不調を未然に防止するため、ストレスチェックの受検率100%を目指します。
- ・ 教職員等の悩み、不安等に対し、教職経験者や医師による相談窓口を設置します。
- ・ 各学校において、衛生管理者等及び産業医を選任するとともに、衛生委員会等を開催するなど、教職員等の健康障害の防止に努めます。

5. 関連する取組, 今後のフォローアップ

- ・ 本計画に基づく措置の実施状況については、取組状況や目標に対する実績等について点検等を行い、その結果をその後の対策や計画に反映させます。また、ホームページへの掲載により公表し、教育委員会の会議や総合教育会議でも報告します。

- ・ 各学校の状況を確認し、課題がある場合は学校に聞き取りを行い指導します。特に、時間外在校等時間が長時間になっている教職員等がいる学校や、休憩時間の確保等が課題となっている学校には、年度内に改善できるよう、個別に支援や指導を行います。
- ・ 各学校では、校長など管理職のリーダーシップのもと、学校関係者評価委員会での話し合いも参考にしながら、この計画に沿って教職員の働き方改革に取り組めます。各学校の取組を進めるため、伊仙町教育委員会は本計画を広く周知するとともに、管理職研修会でマネジメントに関する研修を充実させるなど、支援を強化します。
- ・ 関係部局と連携して、保護者や自治会などに「業務の3分類」などの業務量管理・健康確保措置の内容について周知を行い、具体的な協力を得られるよう取り組めます。
- ・ 「業務の3分類」に基づく、具体的な対応策の好事例に関する情報を各学校で共有できるよう努めます。
- ・ 児童生徒の支援を行う医療や福祉の人材を活用するために、関係部局や機関と協力して取り組めます。
- ・ 本計画による働き方改革の推進により、各方面と連携・協働した魅力発信を行うなど教職員のなり手の確保に努めます。